

「渥美俊一先生が起草した日本チェーンストア協会<sup>ほっそく</sup>発足にあたっての声明書」

チェーン・ストア・エイジ 2010年9月1日号 出版社：ダイヤモンド・フリードマン社刊を読む

渥美俊一先生が起草した日本チェーンストア協会<sup>ほっそく</sup>発足にあたっての声明書

我々は、暗黒大陸といわれた、流通業の世界に、自からの力によって、新しいあるべき秩序を、<sup>つく</sup>創り出そうとしている。

わが国流経済構造のゆがみとして、もっとも立ちおくれた業界と、つねに批判されて来た小売り業の中から、我々チェーンストアを志す<sup>ひとむれ</sup>一群の企業が、雄々しく立ち上った。

零細なことが当然とされたこの業界で、年商 50 億円、100 億円を越す大規模小売り業が、すでにぞくぞくと出現した。

それは小売り業ではなくして、<sup>ただ</sup>正しく<sup>おお</sup>大売り業であった。欧米先進国の事例からみても、近代文明社会ならば、小売り業から、大売り業が育つのは、必然の<sup>ことわり</sup>論理なのであった。

なぜなら、それは、チェーンストアであるからだ。

チェーンストア組織こそは、中小企業であった小売り業が、巨大企業へ成長する、ただひとつの道である。

なぜなら、それのみが、生産者による一方的な流通支配をはね返し、真に消費者の側にたって、消費財についての価格主導権を、確立する手段であるからだ。

かつて、我々の行手をはばもうとした妨害と、迫害を、我々は、はね返し続けて来た。

我々の成長の歴史は、そのまま物価切り下げへの闘いの<sup>ふみ</sup>歴史であった。不屈の抵抗の連続であった。

しかし、いかなる場合も、消費者の立場にたって、考え、決断し、行動することこそ、我々のつねに変わらぬ、商業者としての姿勢であった。それを、たくましき商魂と、我々は呼んだ。

そしていつの場合も、賢明なる消費者大衆の選択が、我々を支持し、激励し、推進してくれたのである。

我々日本のチェーンストアは、消費者の満足と、より高い生活水準こそ、我々の創り上げるべき価値であると、信じて疑わない。

そして、そのためには効率のよい流通機構を、我々の手で作り上げようと決意する。それ故に、自由で公正な競争の場が確保されねばならない。我々はいかなる地盤協定および価格カルテルも断乎として排撃するであろう。さらに、消費者のためになるならば、国際的な連帯をも強化するであろう。

ここに日本のチェーンストアグループは結集し、意見発表の場を確立した。まもなく我々は、わが国土に、清新にして強大なるインダストリーを誕生させるであろう。

それは、事業としても限りなく輝かしい、バラ色の世界である。

我々は確信する。祖国<sup>にっぽん</sup>日本の、豊かな社会は、チェーンストアの無限の発展によってのみ可能であると。

昭和 42 年 8 月 2 日

[コメント]

2010年7月21日に御逝去になったペガサスクラブ主宰者：渥美俊一先生の執筆になる日本チェーンストア協会発足にあたっての声明書。日本のチェーンストア理論の生みの親である渥美先生の熱意が伝わる、

- 2010年8月29日林 明夫記 -